



鍍絵「鶴と松」

残念ながら、7月末に解体されてしまった名建築がある。西予市城川町の土居地区にあった赤松家である。昭和29年まで存続していた旧土居村の中心にあった旧家で、土佐へ通ずる本通りと呼ばれる街道筋に面し、一際目立つ二階建ての建物だった。



まだ頑丈な小屋組み

築時に程なく作られたと思しき記念葉書の写真には、東宇和郡土居村赤松薫二郎宅とある。別な資料によると、薫二郎は同27年生まれなの



二階書院欄間

内部はどうだろう。東側の通りから玄関を入ると、土間が板間となっており、菱格子に溝切りをした珍しい手法。大きな丸窓の向こうは三畳間となっていて、その右隅建物中央となる場所には大黒柱がデンと座っている。北側半分は共に十畳の仏間と座敷が続ぎ、風格を見せる。つまり、大黒柱を中心として事務的なあるいは居間や台所などの空間を南側に取

が あつたので、記録保存の意味でもこの建物の魅力について書き残しておこう。赤松家は、酒造業や林業などで栄えた家だが、この度の解体に際しては、残念ながら棟札の発見とはならなかった。で、正確な建築年は不明である。ただ17年前、当時管理をされている方からの聞き取りでは明治30年という話だった。通りに面した組格子などの意匠が酷似した、内子町の本芳我家、あるいは上芳我家などが、それぞれ明治17、27年なので、当たらずと言えども遠からずである。新

“MY TOWN” うおっちんで 歩キ目デス & 足ラテス

Vol.49

鍍絵飾りの近代和風 赤松家

岡崎 直司

タウンツーリズム講座主宰・
ヘリテージマネージャー



違い棚

永らく無住となっていた為に、かなり傷んでいたこともあり、所有者も替わりやむなき事となったが、実は平成4年に取材させて頂いたご縁

で、父の赤松島吉家とすべき年齢だが、葉書製作年も不明な為実はよく分からない。
葉書の古写真でも分かるように、傷む前の建物は凛とした佇まいで、一階正面はガッチリと組まれた出格子、反対に二階は開放的な手摺りが巡らされ、きめ細かくデザインされた欄間の透かし彫りは一枚毎に違うのだった。そして、入母屋の大屋根、南北方向の両妻壁には、誇らしげな鍍絵が懸魚飾りとしてこの家を強く印象づけていた。

絵柄は、北側が「鶴に松」、南側が「鳳凰」。特に鶴の舞う松の色は弁柄によって殊更赤く描かれている。文字通り赤松家の威勢と見ている。
内部はどうだろう。東側の通りから玄関を入ると、土間が板間となっており、菱格子に溝切りをした珍しい手法。大きな丸窓の向こうは三畳間となっていて、その右隅建物中央となる場所には大黒柱がデンと座っている。北側半分は共に十畳の仏間と座敷が続ぎ、風格を見せる。つまり、大黒柱を中心として事務的なあるいは居間や台所などの空間を南側に取



建物全景(平成21年夏)



記念葉書古写真

り、晴れと“け”を南北に分けた平面配置である。
座敷西側の廊下から北へ浴室、便所などの水周りを別棟とし、建物のメンテナンス上の便宜を図っている。この別棟も凝っていて、廊下天井を杉綾に張り、各室の板硝子も花柄と言うべきか雪の結晶のようなモダンイズム意匠である。愛媛の近代の民家では、こうしたガラスが明治から大正にかけてよく用いられているのが分かる。浴室や便所は、近代の定番である白タイルが使われている。



鏝絵「鳳凰」



杉綾張りの廊下天井

立派な櫺けやきの箱階段から二階へ行くと、十畳二間の続き座敷を中心に襖ふすまをはずせば、28畳もの広さとなる設しつらえで、きつと



幡画

地区の寄り合いや祝祭が幾度もここで催されたに違いない。境欄間は松竹梅の透かしと組格子を千鳥に配し、書院欄間の組格子と輪違いの意匠も入念な細工物。床の間の構成も、櫺の一枚板や四段の違い棚など半端でない。その違い棚をよくよく見れば、筆返しひつがへしの部分ぶつぶんが瓢箪ひょうたんの形状に縁取られ、反対側に盃さかずきを置く懲りこりよう。天袋あまぶくろの上には“正崩ただよみし”の組格子を帯状に入れるなど、初めて拝む意匠の極み。しかし、だからと言って当てつけがましきは無く、それが全体として品よくまとめられている。名も分からねぬが、大工の余程の器量と思われる。

また、今回は見つからなかったが、赤松家はかの飛行機の父二宮忠八翁と縁戚になり、平成4年次には、翁が得意とする烏の絵くまが（幡画）が掛けられていた。ハテ、無事なら良いが。建物の保存は、所有者や関与する人々の意志と、行政予算や活用ビジョンの仕組みなど、かなりハードルの高いゾーンにあり、一朝一夕にはままならない。今回は地元「城川史談会」を中心いくつかの欄間や瓦、違い棚など、出来るだけの部材保存を行い、あの鏝絵も業者協力を得て何とか取り外すことが出来た。「えひめ鏝絵の会」として我々もボランティア加勢をしたのだが、地域における「遺し伝える」は、実際ナカナカのことである。それと最後に、所有者理解や保存した部材を置く城川文書館あつての緊急処置だったことは付記しなければならぬ。



鏝絵修復中



建物全景（平成4年末）